



平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に本学からのプログラムが選定

平成17年度に引き続き、今年度も文部科学省による上記2件の事業に、本学からの提案プログラムが選定されました。「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、全国の国公立大学等から申請のあった565件の中から112件（採択率19.8%）、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」は、129校268件の中から35校46件（採択率17.2%）の採択がありました。

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP） 「可視化コンテンツクリエイタ養成プログラム」

取組担当者：池原 健二 理学部長

〔概要〕本プログラムは、我が国の将来の基幹産業となるコンテンツビジネスの中核となる女性高度技術者養成を目的として、WEBコンテンツクリエイタコース、マルチメディアクリエイタコース、VRクリエイタコース、可視化コンテンツプロデューサコースの4コースと基礎共通科目からなる可視化コンテンツクリエイタ養成プログラムです。理学部の学生が自分の興味とIT関連の知識に応じてコースを自由に選択し、コンテンツクリエイタやプロデューサの認定を受けることで、より高度かつ多彩な職種につける人材に育成されます。（<http://koto.nara-wu.ac.jp/news/H18news/060727/060727-1.htm>）

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」

—21世紀先端科学技術と基礎科学のインターフェースをめざして—

取組担当者：岩淵 修一 大学院人間文化研究科教授

〔概要〕とりわけ日本ではその割合が少ない数学、物理学等の素養と情報科学に対する理解力を有した、知的社会の基盤を支える女性リーダーの育成を目標とし、統合的教育課程の整備に加え、若手女性研究者支援等の経済的支援充実や研究支援体制の強化を実施します。このような活動を通して“21世紀先端科学技術の芽の創出に寄与しうる、あるいは基礎科学と応用科学の架け橋となりうる女性基礎科学研究者・教育者の育成”を促進します。（<http://koto.nara-wu.ac.jp/news/H18news/060712/060712-1.htm>）

「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に本学から提案した事業が採択

平成18年度から19年度にわたり国立情報学研究所が実施する「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」の公募に、本学から提案した「奈良女子大学学術情報リポジトリ」が採択されました。

「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」は、国立情報学研究所が取組む大学等学術研究機関との連携・支援を目的とする委託事業の一つです。国公立大学を対象として、各大学の機関リポジトリの構築とその連携支援を行い、各大学内で創出された研究成果等を積極的に発信し、大学としての社会的説明責任を果たすことを支援します。

「奈良女子大学学術情報リポジトリ」は、学内で創出された教育・研究活動の成果を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で学内外に発信・公開するシステムを整備しようとするものであり、本事業により、教育研究活動の活性化、大学の独自性を生かした機関リポジトリの構築・運用の推進が期待されています。

総合研究棟（文系）の改修工事始まる

耐震改修を主な目的として、総合研究棟（文系）（旧文学部北棟）の改修工事が始まりました。外観を記念館と調和する色調やデザインとなるよう工夫し、また授乳室など女子大学にふさわしいユニバーサルデザインも積極的に採り入れています。

改修面積は、5,102㎡、工期は平成18年8月～平成19年2月末までの予定です。



完成予想外観図

新「課外活動サークル施設」が完成

長年の使用により老朽化が進んだ運動場北側のプレハブ・サークル棟の建替えを行い、新しい課外活動サークル施設が8月1日（火）に竣工しました。2階建て延べ面積495㎡の建物で、各サークルの部室45室と共同更衣室、コピー室、洗面所があり、学生の新たな課外活動の拠点として活用が期待されます。



新「課外活動サークル施設」外観

21世紀COEプログラム 活動状況

平成16年度に採択された21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の活動も3年目を迎えました。本年は専門家・有識者による中間評価が行われる年に当たり、9月にその評価結果が公表されました。評価結果によると、研究活動面ではGISデータベース「奈良盆地歴史地理データベース」の作成などが、本拠点の目的に一致しているものとして高く評価されました。また、本学のように比較的小規模な大学で、大学院生への教育などの効果が上がっている状況も評価されました。



「奈良盆地歴史地理データベース」操作画面
(現在学内のみで運用)

平成18年度第1回目のオープンキャンパス開催

—11月3日(金・祝)には第2回目を開催予定—

本年度第1回目のオープンキャンパスが、7月29日(土)に開催されました。梅雨明けの遅れで心配されていた天候にも恵まれ、北海道から沖縄県まで幅広い地域から、保護者等を含めて昨年より471名(一昨年より938名)多い1,607名の参加がありました。



個人相談の様子

9時30分からの久米健次学長の歓迎挨拶に続き、入試課長による大学紹介の後、学部・学科において模擬講義・実験の実施や学科の特色に関する詳細説明、学生による研究発表が行われました。また、入試や大学での履修、留学や学生生活について相談に応じる個別相談ブースも設けられるなど、様々な催しがありました。学生寄宿舎、附属図書館などの施設見学も実施され、記念館では「アフガニスタンの生活環境とジェンダー」と題した写真展示も行われました。



教員や在学生との懇談

参加者は、奈良女子大学の様々な教育・研究・国際貢献活動の現状や、世界遺産に囲まれた大学の環境に触れることによって、より一層入学の意欲を増したようでした。

11月3日(金・祝)には、学園祭に合わせて本年度第2回目のオープンキャンパス開催を予定しています。

全国各地で入試相談会を開催

本学では、遠方から参加する入学希望者の負担を軽減するため、入試相談会を各地で開催するよう配慮しています。これまで開催の大阪に加え、本年5月には名古屋で初めて開催しました。今後も実施地域を広げることなども視野に入れ、入試広報の充実を図ります。

【今年度の実施状況】大阪(キャンパス・イノベーションセンター(大阪市北区))▼5月13日(土)編入学入試相談会(参加者34名)▼6月18日(日)大学院入試相談会(参加者15名)▼10月14日(土)編入学及び大学院入試相談会(参加者29名)名古屋(駿台予備学校名古屋校)▼5月21日(日)編入学入試相談会(参加者9名)▼6月25日(日)大学院入試相談会(参加者5名)

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ —生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成— 活動状況

平成17年度に選定された本プログラムは2年目を迎え、本年度から改定されたカリキュラムが本格実施されています。「専門基礎群」「専門応用群」「論文作成」科目によって専門の深化や研究の課題解決を行うだけでなく、「研究マネジメント群」「キャリア形成群」両方の科目によって、研究生活を自らサポートする能力の育成を行っています。さらに、調査・フィールドワークの交通費助成や研究成果公開援助などは、予想以上の応募を得て積極的な研究支援が実現しており、大学院生による自主企画研究セミナーも既に3企画が稼働しています。

FD(ファカルティ・ディベロップメント)は、教員と院生が協力し合って進める<情報交流型FD>を独自方針として打ち立てました。また、教員による大学院教育にまつわるエッセー「やえ・ここのえ・ときのこえ」をホームページの活動状況で好評更新中です。各専攻の教育的取組みが推進されています。
(<http://www.nara-wu.ac.jp/initiative-life/>)

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」 —地域の変革を促す女性人材育成プログラム— 活動状況

平成17年度に選定された本プログラムでは、女性人材育成を主な目的とし、地域と連携した教育改革に取り組んでいます。今年度はキャリア・デザインゼミナールを中心に



奈良町セミナーハウスで
開催した成果発表の様子

授業を開講し、前期は、ならまちなどの資源発掘調査(歴史的町並みの保存・再生実践講座I)、イベントの企画・運営、商店街調査(商店街活性化体験講座)、身近な生活環境における危険箇所の抽出や夜間照明調査(安全・安心のまちづくり実践講座)などを行いました。また、昨年オープンした奈良女子大学「奈良町セミナーハウス」も、授業を通じて整備・活用しています。後期も引き続き、「女性起業家から学ぶ」をはじめ実践的な授業を展開します。

(<http://www.nara-wu.ac.jp/gp/>)

近畿地区国立大学体育大会の結果

—卓球部が優勝など大健闘—

第44回近畿地区国立大学体育大会が8月に開催されました。本学は9種目にエントリーし、総合成績では女子の部6位と健闘し、種目別では、卓球部が9年ぶりに優勝、剣道部が準優勝と好成績を収めました。また今年度は、弓道、テニス、卓球の3種目を本学が担当大学として開催し、各クラブの学生が大会運営面でも活躍しました。



優勝した卓球部

「女性研究者支援モデル育成」事業 活動状況 —生涯にわたる女性研究者共助システムの構築—



「科学実験なら」実施風景

第6号で紹介いたしました本年度の科学技術振興調整費プログラム課題に採択された本学の事業が本格始動しています。本事業は「女性研究者共助支援事業本部」を中心に活動を進めています。主な取組みと現状は以下のとおりです。

①二次保育・休日保育を中心とした子育て支援を目指し、子育て支援Webシステムを開発中
②育児や介護に携わる女性教員の教育・研究活動を助けるために、主に博士後期課程修了者を採用し教育研究支援員として10月1日から配置
③大学院生や学部生のキャリア形成を支援するために、卒業生を含めたネットワークを構築。また、来年の1月に、国外から女性研究者を招聘してキャリア向上・維持のためのシンポジウムを開催予定
④男女共同参画に向けた意識啓発のための教職員対象の講演会を12月に実施予定
⑤女性研究者の裾野を広げるために、主に女子小中高生を対象にした科学講座「エキサイティング！科学実験なら」の第1回目を9月9日（土）に開講。

詳しい内容はホームページ (<http://shien.nara-wu.ac.jp/~wla/index.html>) をご覧ください。

公開講座風景

—シリーズ講座「くらしを考える」好評開催—

本学では、今年度から放送大学奈良学習センター及び奈良県社会教育センターとの連携・共催によるシリーズ講座「くらしを考える」を開講しています。今年度は9月から12月の毎月1回の計4回、健康、美術、宗教、歴史や文学など多岐にわたるテーマで開催されます。

第1回講座「たばこについて考える」は、本学保健管理センター高橋裕子所長を講師として、9月9日（土）に開催されました。

【講演要旨】

禁煙は世界的な潮流といわれていますが、実際に喫煙者が禁煙することは容易なことではありません。タバコがやめにくいのはニコチン依存と心理的依存の2つの依存を生じるためですが、ニコチンパッチなど禁煙補助剤の普及でニコチン切れを軽減することができます。



「たばこについて考える」講座風景

さらに心理的依存にも対処したインターネット禁煙マラソンなど、ピアサポートプログラムも開発されました。

禁煙にチャレンジしたみなさんのさまざまなエピソードは人間の可能性の大きさを示しています。

佐保会館改修工事が進む

—昨年国の登録有形文化財に指定—

社団法人佐保会（奈良女子高等師範学校・奈良女子大学同窓会）本部である佐保会館は、本学構内運動場の北西隅にある和風木造建築物です。昭和3年に建築されて以来、同窓会の活動拠点となっており、一時は大学の講義に使用されたこともあります。平成17年には「昭和初期の和風木造建築として造形の規範となるもの」という評価によって、国の登録有形文化財に指定されました。この機会に改修することになり、現在改修中ですが、本年度末には完工予定です。

改修後は同窓会の活発な諸事業の拠点として、また、在学生・大学教職員と卒業生との交流の場として活用されるだけでなく、地域社会にも開かれた活動の場を提供する予定です。

「百年ピアノ」コンサートが続々開催

「小規模でも文化的なコンサート」をコンセプトに、百年ピアノを利用したコンサートが随時開催されています。9月18日（月・祝）には百年ピアノやペルシャの民族楽器のコンサートを開催しました。



その他今年度は、7月24日（月）、7月30日（日）、8月24日（木）にも学内外の団体主催による一般の方を対象としたコンサートが実施されました。

コンサート予定などは、決定次第ホームページや大学正門前掲示板などでご案内しますので、ご期待ください。

食教育推進フォーラム開催

—子供の明日を拓く食教育—

8月25日（金）に本学食教育研究推進本部により、学校管理職、栄養教諭、栄養職員、食育に関係する教職員、保護者を対象に、食教育推進フォーラムが開催されました。日本全国から当初の予想を超える1,000名近くの方に参加頂き、食教育に対する関心の高さを改めて感じました。



講堂上で行われた公開授業の様子

当日は、5題の講演とともに、本年4月に奈良県下で初めて配置された栄養教諭である、本学附属小学校の太田原栄養教諭による公開授業も行われました。

各種メディアに大学施設が登場

—正門周辺や百年ピアノなど—

美しいキャンパスや由緒ある歴史が数多く残る本学には、特集やドラマロケなどの撮影協力依頼が数多くあります。文化的な目的のもとに制作され、大学の広報活動に有益と判断される事業については、積極的に撮影協力しています。様々なメディアを通して、本学の歴史や良さを再発見してください。



正門周辺でのテレビドラマのロケ風景

国際交流協定の締結 —英国 レスター大学と新たに大学間交流協定を締結—

今年度は、7月5日(水)にレスター大学(University of Leicester) <英国>と大学間交流協定を締結しました。レスター大学は、英国の大学院教育を率先する教育機関として高い評価を受け、教育・研究面での国際的評価も極めて高い総合大学です。これにより、本学が交流協定を締結している海外の大学は、計28大学(うち部局間協定は4大学)となりました。

交流協定締結大学への教員派遣事業

—中国 南京大学、蘇州大学へ—

平成18年3月、教員を相手大学へ一定期間派遣し、教育研究活動を行うという内容の覚書を、協定校である南京大学、蘇州大学とそれぞれ取り交わしました。この覚書に基づきこの度、大学院人間文化研究科の坂



南京大学での坂本教授の講義風景

本信幸教授(日本アジア文化情報学講座)を南京大学へ、文学部の千本英史教授(日本アジア言語文化学講座)を蘇州大学へ、それぞれ9月下旬に派遣しました。南京大学では、日本語・日本文学を専攻する学部生・大学院生を対象に、万葉集の概況に関する講義をメインにして奈良及び奈良文化も紹介するという講義を行いました。また、陳学長に面談する機会もあり、学長から奈良女子大学との交流を大事にしているというお考えも伺いました。蘇州大学では、日本語学科の若手教員を対象に竹取物語、伊勢物語、説話文学、国文学研究史、国文学研究法について講義を行うとともに、日本語専攻の学部生に対しても説話文学についての講義をわかり易く行いました。

この事業には、本学大学院学生を2名ずつ同行させ授業の



蘇州大学での千本教授の講義風景

支援を担当してもらいました。また、学生達はキャンパスの見学や学生との交流も行い、中国の大学や学生を知る意義ある機会ともなりました。

この教員派遣事業は覚書に基づき当面3年間実施する計画です。

外国人留学生実地見学旅行

9月21日(木)、22日(金)の両日、丹後方面への留学生実地見学旅行を実施しました。留学生27名が参加し、日本三景で有名な天橋立や伊根の舟屋など丹後の海と自然豊かな景色を堪能しました。また、キリンビール工場を訪ね自然環境との共存を学び、日本の鬼の交流博物館では、世界の鬼との比較で、日本文化の中で様々な姿を見せる「鬼」を学習しました。さらに、型押し染めの体験を通して、オリジナルのハンカチ



天橋立を背に記念撮影

を見事に染め上げ、それぞれの作品を大切に持ち帰ることができました。

2日間を通して天候に恵まれ、日本の伝統・文化への理解を深めた、有意義な実地見学旅行となりました。

台湾・韓国での留学フェアに参加

本学は、例年海外で開催される日本学生支援機構主催の日本留学フェアに参加していますが、今年は、台湾に7月28日(金)(高雄市)と30日(日)(台北市)、韓国に9月9日(土)(釜山市)と10日(日)



ソウルCOEX会場ブースの様子

(ソウル市)参加しました。各会場は、いずれも昨年の参加者数を上回り、日本への留学熱の高まりを感じました。会場では、現地出身の留学生の協力があり、通訳としての役割に留まらず、実体験に基づいた具体的な学生生活情報も提供することができ、参加者に好評でした。

国際交流基金奨学金授与式

本学の創立90周年を機に同窓会である社団法人佐保会の支援により設立した奈良女子大学国際交流基金(平成12年度設立)をもとに、外国人留学生及び派遣留学生に対する奨学事業を実施していますが、今年度選考の外国人留学生9名、派遣留学生4名を対象に、7月12日(水)に奨学金採用決定通知書授与式を挙行了しました。

式では、久米学長から代表者に決定通知書を授与するとともに、基金設立の趣旨や事業実施の経緯等についての説明の他、授与者各位の活躍について激励の言葉がありました。その後、式に列席の清水副学長、井上副学長等を交え、授与者との懇談が行われました。

なお、この事業の実施から今年度までの奨学金授与者は、延べ73名にのぼっています。



久米学長を囲んだ記念撮影

国際交流基金使途報告

国際交流基金の平成18年度の主な留学生等支援については次のとおり予定しています。

- ・外国人留学生奨学金 9名(博士後期課程5名、博士前期課程4名)に対し、一人月額4万円を1年間支給
合計 432万円
- ・派遣留学奨学金 4名に対し、一人10万円を支給
合計 40万円
- ・留学生スピーチ大会援助 発表者10名に対し、一人1万円の図書カードを進呈
合計 10万円

編集・発行 奈良女子大学広報企画室

編集責任者 清水哲郎(副学長)

連絡先 奈良女子大学総務・企画課

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205

E-mail admin@jimu.nara-wu.ac.jp

